

抜粋版

史跡整備・活用等特別委員会資料

案件2：歴史遺産を活用したまちづくりについて

令和8年1月30日

【 街にぎわい部 】

案件 2 : 歴史遺産を活用したまちづくりについて

目 次

1	芥川城跡の取組について	2-1
---	-------------------	-----

1 芥川城跡の取組について

(1) 主な経過

年度	主な取組
平成5年度	<ul style="list-style-type: none">・城跡全体の遺構分布調査。城跡の詳細構造を把握し、概要図作成・三好山山頂に位置する主郭(本丸)での発掘調査・主郭近くの曲輪での発掘調査。外国製陶磁器や丹波焼が出土・しろあと歴史館で特別展「三好長慶の時代-「織田信長 芥川入城」の以前以後-」を開催・大手石垣のレーザー測量調査・城跡全体の航空レーザー測量調査・大手道東側に位置する曲輪石垣のレーザー測量調査
平成6年度	
平成19年度	
平成28年度	
平成29年度	
平成30年度	
令和元年度	<p>○史跡指定に向けた取組を開始</p> <ul style="list-style-type: none">・芥川山城跡調査委員会の設置・石垣の分布調査、遺物の分布調査、文献調査、法務局調査
令和2年度	<ul style="list-style-type: none">・主郭一段下の曲輪における発掘調査。全国的にも珍しい「櫓」の跡を確認し、天目茶碗や硯などが出土
令和3年度	<ul style="list-style-type: none">・総合調査報告書の刊行・文化庁に史跡指定申請(意見具申)
令和4年度	<p>○史跡「芥川城跡」告示(11月10日)</p> <ul style="list-style-type: none">・本市が管理団体の指定を受ける・特別展「戦国武将 三好長慶」、指定記念歴史講演会を開催
令和5年度	<ul style="list-style-type: none">・ARアプリ配信・史跡指定地の公有化事業に着手(測量)
令和6年度	<ul style="list-style-type: none">・史跡芥川城跡保存活用計画策定に着手(2か年)・芥川城跡保存活用検討委員会を開催
令和7年度	<ul style="list-style-type: none">・芥川城跡保存活用検討委員会を開催・史跡指定地の公有化事業(測量、境界確定)・しろあと歴史館特別展「戦国動乱の畿内」を開催・全国山城サミット石川県白山大会にPR出展・史跡芥川城跡保存活用計画を策定予定・特別講座を開催予定(令和8年3月)

(2) 公有化と活用の取組

① 公有化に向けた取組

史跡芥川城跡の速やかな保存と今後の活用のため、史跡指定地の公有化に向けた用地測量や境界確定を地権者立会いのもと実施。令和6年度から2か年にかけて、高槻市土地開発公社による公有化を進めた。

史跡指定地	公有化率	92.4%
-------	------	-------

令和7年12月末現在

② 活用の取組

しろあと歴史館で特別展「戦国動乱の畿内」を開催したほか、全国山城サミット石川県白山大会でのPR、御城印・武将印の頒布を実施。令和8年3月には特別講座「芥川城と戦国時代の武家文化」を開催する。



しろあと歴史館特別展「戦国動乱の畿内」



全国山城サミットでPRブースを出展



2枚揃えの武将印「和田惟政」

(3) 史跡芥川城跡保存活用計画

① 保存活用計画の策定

史跡芥川城跡の適切な保存・活用にむけて、令和6年度から7年度までの2か年にわたり、芥川城跡保存活用検討委員会の指導・助言のもと、文化財保護法第129条の2に規定する「保存活用計画」の策定を進めた。

■ 芥川城跡保存活用検討委員会

区分	氏名	所属	専門
委員	中井 均	滋賀県立大学 名誉教授	城郭史
	仁木 宏	大阪公立大学大学院文学研究科 教授	文献史
	網 伸也	近畿大学文芸学部文化・歴史学科 教授	考古学
	恵谷浩子	国立文化財機構 奈良文化財研究所 文化遺産部景観研究室長	史跡整備
	土井裕介	地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 主任研究員	植物生態
オブザーバー	文化庁文化財第二課、大阪府教育庁文化財保護課		

	日時	場所	議題・内容
第1回	令和6年 10月10日(木)	高槻市役所 総合センター	・ 役員の選出について ・ 史跡芥川城跡保存活用計画の概要について ・ 第1章 計画策定の目的～第3章 史跡の概要の内容確認
第2回	令和7年 2月18日(火)	高槻市役所 総合センター	・ 第4章 史跡の本質的価値～第6章 保存(保存管理)の内容確認
第3回	令和7年 5月22日(木)	高槻市役所 総合センター	・ 第7章 活用～第8章 調査研究の内容確認
第4回	令和7年 8月7日(木)	高槻市役所 総合センター	・ 第9章 整備～第12章 経過観察の内容確認
第5回	令和7年 12月24日(水)	高槻市役所 総合センター	・ 文化庁協議を踏まえた最終案について

② 史跡の本質的価値

- 戦国時代後期に石垣、礎石建物、瓦を先駆的に採用し、織豊系城郭が成立する以前の山城の構造がわかる摂津国最大規模の山城跡
- 築城から機能停止までの時期、城内での政治や文化活動が文献・考古双方の見地から確認できる山城跡
- 首都京都に代わる政庁として、戦国時代後期の三好長慶らによる政治の舞台となった山城跡



芥川城跡山頂を望む

③大綱

史跡芥川城跡の本質的価値を保存し、広く活用していくための大綱を以下に定める。

芥川城跡の価値を大切に守り、
歴史の魅力を広く発信し、
地域が誇る戦国時代の山城を活かし伝える

④基本方針

■保存（保存管理）

- ・本質的価値を確実に伝えるため、保存（保存管理）の方法を定める。
- ・史跡の現状変更等に関する取扱方針と取扱基準を明示する。
- ・一体的かつ円滑な保存・活用を進めるため、追加指定や公有化に向けた取組。

■活用

- ・見学者の安全に配慮した遺構の公開や、調査成果に基づく出土遺物と文献史料の展示を進める。
- ・多様な媒体・ツールを用いた情報発信や、学校教育を含む普及啓発での活用を進め、郷土愛の醸成につなげる。
- ・関連文化財群や近隣の観光資源との周遊ルートの構築に加え、他の機関との連携を促進。

■調査・研究

- ・本質的価値をさらに高め、適切な保存・活用を図るための現地踏査や考古学調査、文献調査を実施。

■整備

- ・遺構の復旧方法の検討や適切な植生管理等を実施。
- ・見学路や便益施設などの見学環境、サイン類、デジタルコンテンツと新たなアクセスルートの整備等の検討・実施。

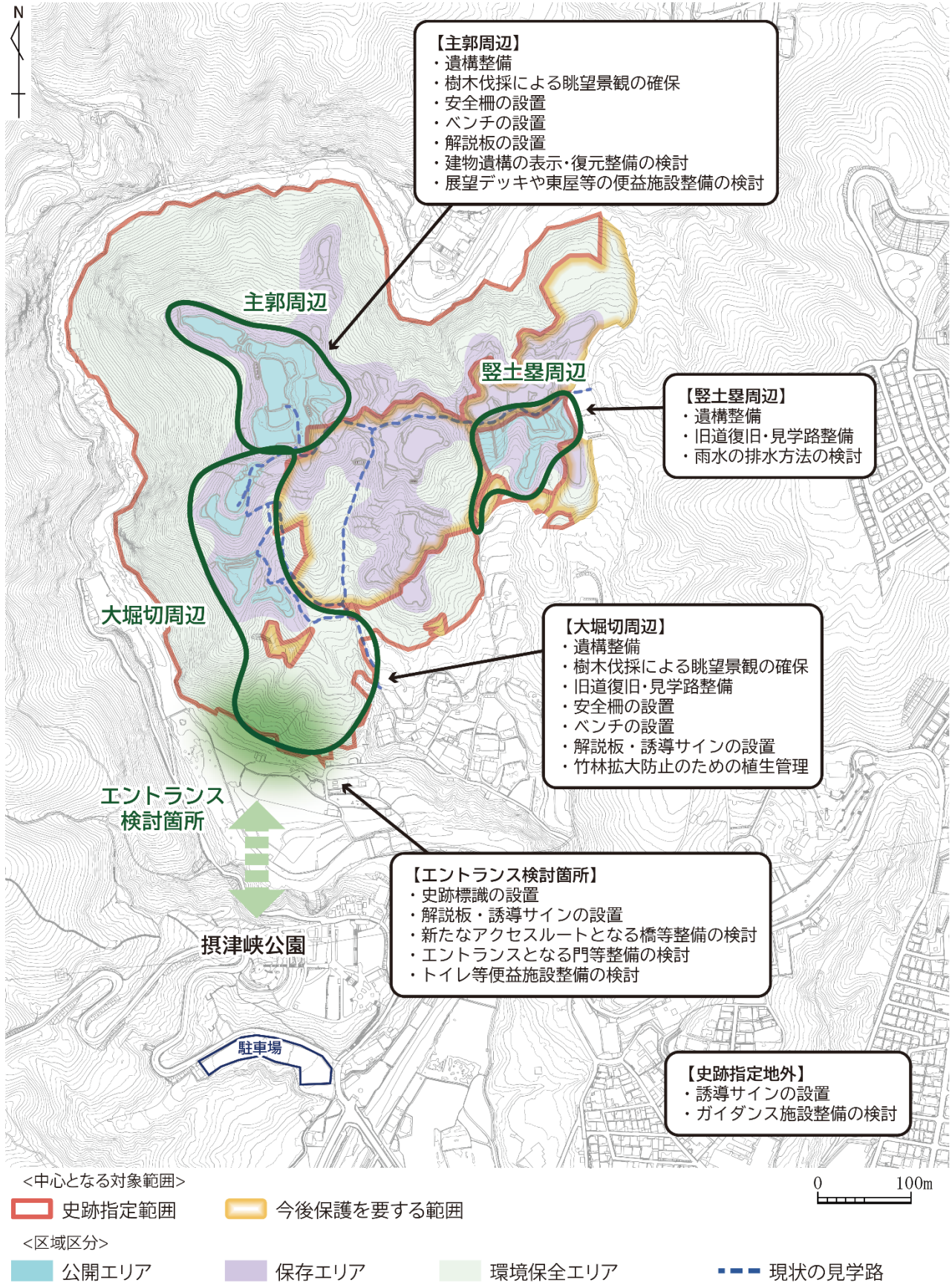
■運営・体制

- ・高槻市が管理団体として中心的な役割を担い、よりよい保存と活用に向け、様々な関係者との連携・協力体制を構築。

⑤計画の実施

概ね5年以内に実施する取組みを短期計画（令和8年度～12年度）、概ね10年以内に実施する取組みを中長期計画（令和13年度～17年度）として実施。

⑥整備イメージ像



■ 桜広場からの鳥瞰図

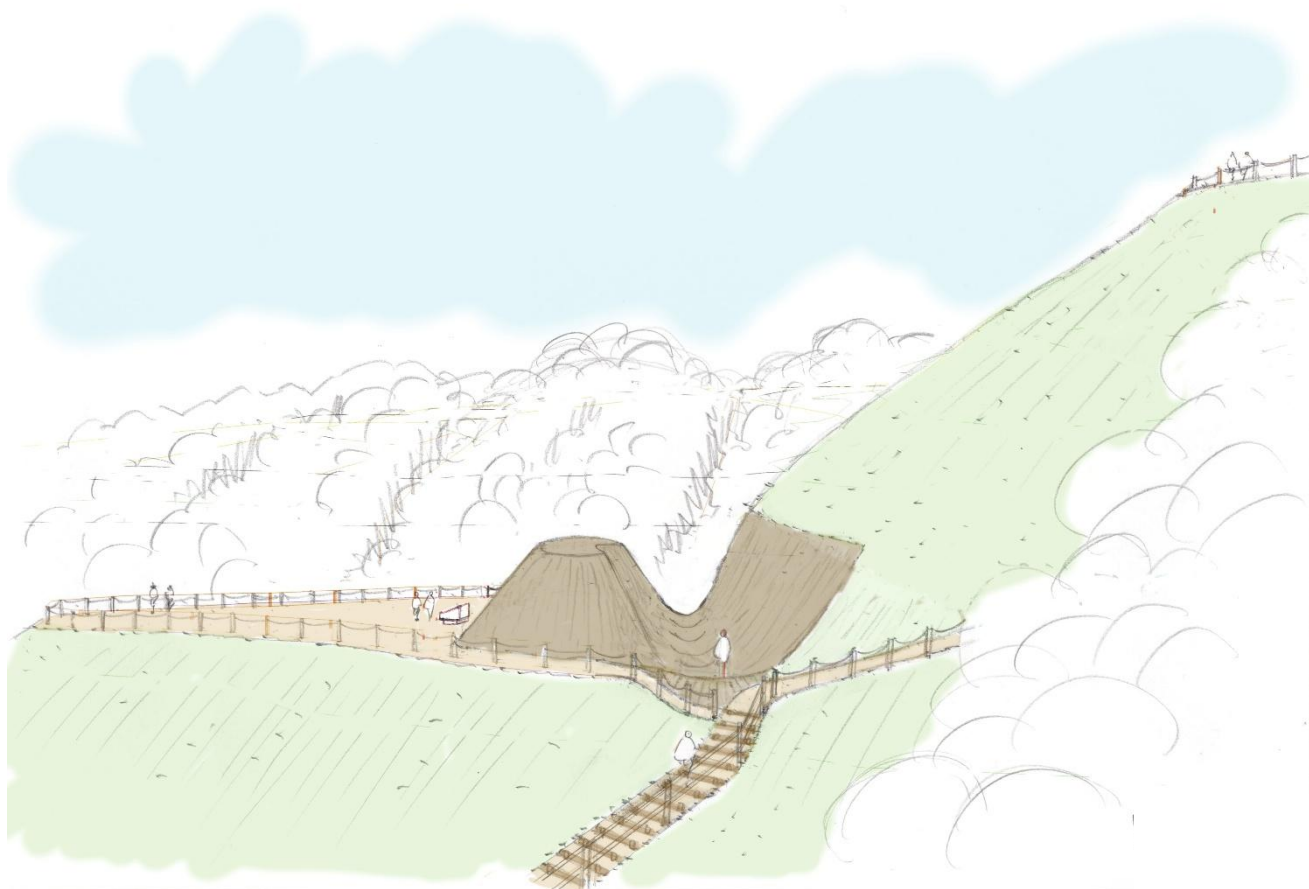


■ 史跡芥川城跡の入口



※将来イメージのため変更する可能性があります

■ 大堀切と土塁、見学路



※将来イメージのため変更する可能性があります

(4) 今後の予定

時期		令和8年度	短期 (概ね5年程度)	中長期 (概ね10年程度)
史跡指定地	保存活用計画	文化庁認定	計画実施	計画実施
	保存の取組	用地測量	公有化	維持管理
	活用の取組	整備基本計画 ※都市計画事業を視野に検討	設計	整備工事
			発掘調査	
		展示、歴史講演会の開催 ARアプリの配信 御城印・武将印の頒布		

(5) 関連計画（摂津峡公園再整備について）

① 摂津峡公園リニューアル方針（基本構想）

■ 目的と対象範囲

摂津峡公園について、豊かな自然環境をいかしつつキャンプ場や史跡芥川城跡も含めた再整備の検討を進め、誰もが楽しむことができる観光拠点となるよう摂津峡公園リニューアルの方針を検討した。

■ 課題

摂津峡公園は昭和31年に開設し、本市を代表する観光地として親しまれてきましたが、桜の老木化をはじめキャンプ場を含む施設の老朽化への対応、保存・活用を進めている史跡芥川城跡との連携、また公園利用者のニーズに応じた魅力的な整備を図る必要がある。



対象範囲

■ みんなの声（アンケート調査、モニタリングキャンプ）

リニューアルにあたり、市民利用者や周辺住民、関係者等からアンケートやモニタリングキャンプ、意見交換会を実施し、様々な意見を把握した。

<主な意見>

- 市街地から近いことや自然が豊かなことが魅力
- 四季折々の花木が楽しめる自然環境の整備
- 屋根や休憩スペースなどの整備
- キャンプ場への道の拡幅
- 施設のオンライン手続き など



昨年度のモニタリングキャンプ

■ リニューアル方針

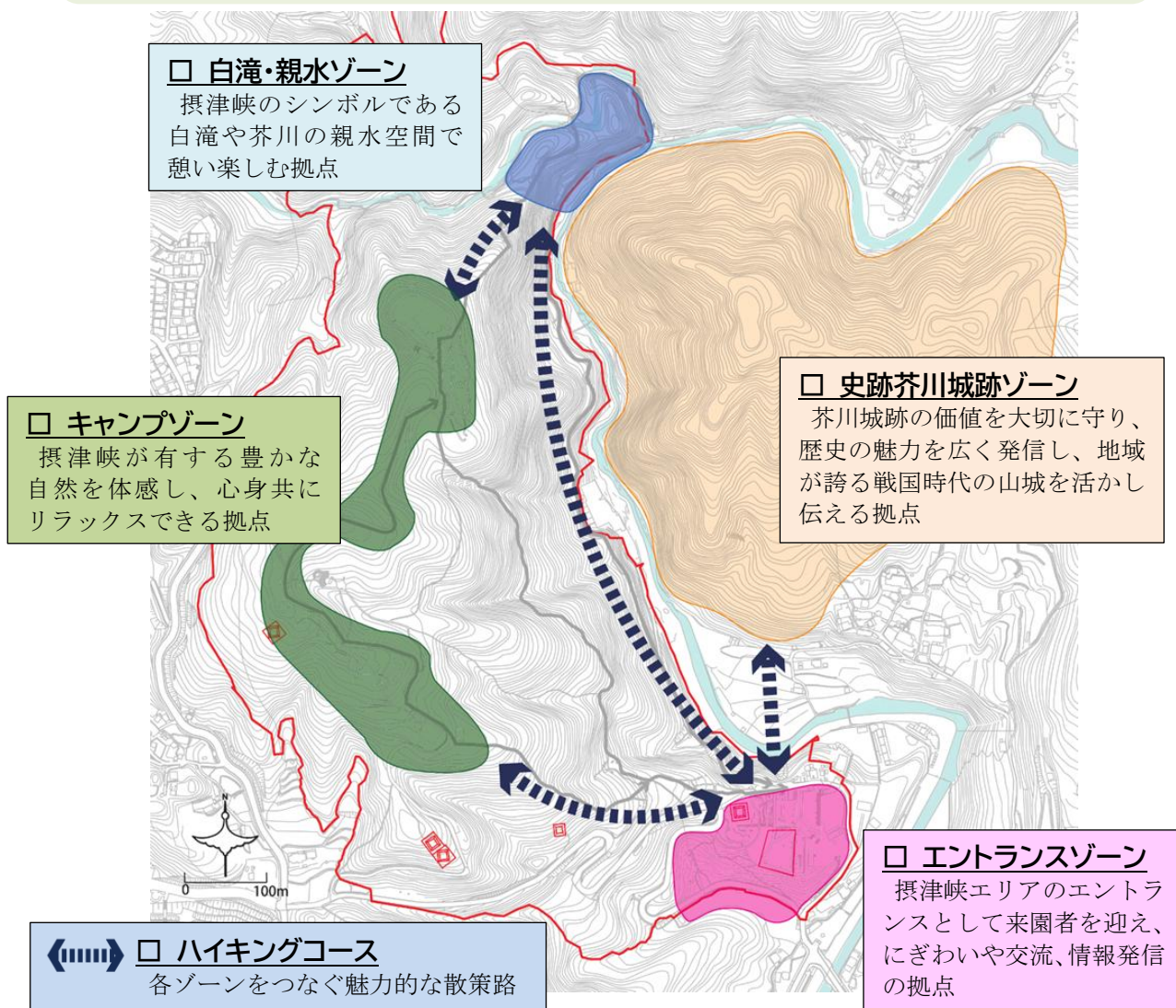
桜の名所やハイキングコースをはじめ四季を通じて楽しめる自然や渓谷美といった摂津峡が有する豊かな魅力を磨き上げ、加えて歴史を体感できる史跡芥川城跡や一年を通じて楽しめるキャンプ場を整備し、季節ごとの特色あるイベントの展開、交通利便性の向上をめざす

<コンセプト>

四季折々の豊かな自然と悠久の歴史が織りなす 観光にぎわい拠点

■ ゾーニング

- 摂津峡エリアの地形特性から、桜広場周辺を「エントランス」とし、「キャンプ」、「史跡芥川城跡」、「白滝・親水」と合わせて4つのエリアにゾーニング。エリアごとに検討を深度化
- 「キャンプゾーン」については、リニューアル方針と昨年度の検討を踏まえ、リニューアルに向けた考え方をとりまとめ



② キャンプ場のリニューアル

開設から約60年が経過し、ロッジやテントなどの施設が老朽化。駐車場も離れており、リニューアルが求められている



摂津峡の自然をいかし、近年のキャンプスタイルにも適合。初心者をはじめ、幅広い世代が気軽にキャンプができる場へ



■リニューアルイメージ



第一キャンプ場（森のキャンプ場）



第二キャンプ場（山の上の原っぱ）

※整備イメージのため変更する可能性があります

③ 今後の予定

年度	令和8年	令和9年～
キャンプ場	設計	再整備 ※再整備時に一時閉鎖（予定）
摂津峡公園	基本計画・設計 ※新たなアクセスルートの検討を含む	再整備
その他（運営など）	適時、市民意見の把握や民間事業者へのヒアリング など	